

公開討論会
復興を通じた革新
産・官・学・NPO それぞれの役割
——ニューオリンズに学ぶ——

2013年5月21日(火) 14:00~17:00(開場 13:30)

岩手大学復興祈念銀河ホール

2005年8月、ハリケーン・カトリーナが、アメリカ南東部を襲いました。死者約1800名、行方不明者700名の被害が出ました。その最大の被害地が、ルイジアナ州ニューオリンズ市でした。

2012年9月、公益財団法人渋沢栄一記念財団は、ニューオリンズの復興に貢献した人たちとの交流のため、釜石の3名を中心とする5名の使節団をニューオリンズに派遣、相互の経験や情報の交換を行いました。そしてこのたび、ニューオリンズから分野を異にする4名の専門家を岩手県に招待し、下記要領にて、盛岡の方々と交流を行う機会を設けることにしました。

共 催：国立大学法人岩手大学、公益財団法人渋沢栄一記念財団

助 成：国際交流基金日米センター

後 援：岩手県

協 力：IBC 岩手放送

参加無料・要事前申込

日 時：平成25年5月21日(火) 14:00~17:00 [開場 13:30]

場 所：岩手大学総合教育研究棟(環境系)復興祈念銀河ホール

〒020-8551盛岡市上田4丁目3-5

米側発表者：ジョセフ・ブース(ルイジアナ州立大学スティーヴンソン災害マネジメント研究所所長)

シモーネ・ブルニ(デモ・ディーヴァ・デモリッション社代表)

ミシェル・ジャン＝ピエール(エリス・マルサリス・センター・フォー・ミュージック代表)

ロビン・キーガン(元ルイジアナ州復興局代表)

モデレーター：橘川武郎(一橋大学大学院商学研究科教授)

プログラム：

1. 開会の挨拶：岩手大学 学長 藤井克己
2. 報告：釜石企業家の米国視察と釜石での意見交換会 橘川武郎
3. ハリケーン・カトリーナからの教訓
 - ・ジョセフ・ブース「大学の役割：災害対策・復興の研究と実践」
 - ・シモーネ・ブルニ「ハリケーン後の起業活動」
 - ・シェル・ジャン＝ピエール「音楽を通じた子どもたちの心のケア」
 - ・ロビン・キーガン「ルイジアナ州の復興全体計画の策定、住宅再建、中小企業支援」

・エウエル・スミス「水産業復興と風評被害との戦い」

4. 岩手県被災地の現状

- ・岩渕明（岩手大学副学長）「岩手大学の復興への取り組み」
- ・上野善晴（岩手県副知事）「岩手県の復興への取り組み」
- ・小野昭男（小野食品代表取締役）「水産加工業の現場から」

～休憩～

5. ディスカッション

6. 会場との質疑応答

7. 閉会の挨拶：渋沢栄一記念財団 理事長 渋沢雅英

■申込み及び会場等に関する問い合わせ

岩手大学研究交流部三陸復興推進室 担当 浜田

電話：019-621-6629

FAX：019-621-6995

e-mail:sanriku@iwate-u.ac.jp

■発表者等に関する問い合わせ

公益財団法人渋沢栄一記念財団総務部 加藤（るり）

〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1

電話：03-3910-2314

FAX：03-3910-2849

e-mail:research-dpt@shibusawa.or.jp